

就労支援関連事業について

がんになった従業員の治療と仕事の両立支援セミナー（R4年度～）

1 事業概要

両立支援の必要性や取り組むべき事項について、企業側の理解促進を図るため、両立支援ツール（サポートブック等）や取組事例の紹介等を行うセミナーを開催

2 令和7年度開催実績



	第1回	第2回
日時	令和7年11月10日（月） 13時～15時（個別相談は15時半～17時半）	令和8年1月16日（金） 13時～15時（個別相談は15時半～17時半）
開催方法	オンライン	オンライン
タイトル	人材定着につながる！ がん治療と仕事の両立を支える職場づくり	がんと仕事の両立支援セミナー ～働く女性の健康を支える職場づくり～
内容	・産業医、社会保険労務士、産業保健総合支援センター職員、がん経験者による講演、都職員による難病・がん患者就労支援奨励金の紹介、出演者によるパネルディスカッション （第1回は両立支援の基本的内容、第2回は女性特有のがんと健康課題を中心とした内容） ・セミナー後に社会保険労務士による個別相談を実施	
参加者数	219名	289名
相談件数	1件	4件

（参考：過年度参加者数） R6年度：第1回151名、第2回183名 R5年度：115名 R4年度：89名

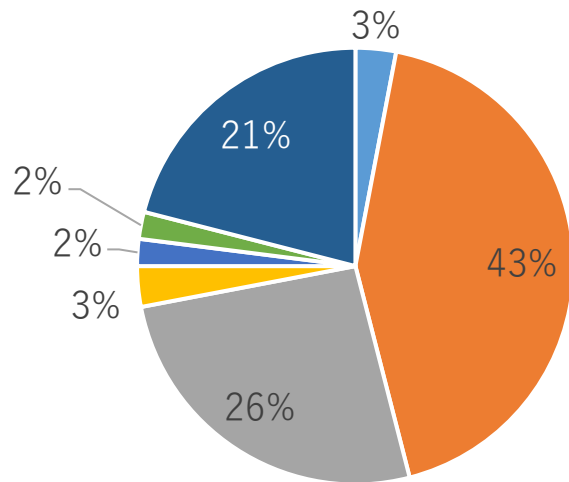
がんになった従業員の治療と仕事の両立支援セミナー（R4年度～）

参加者アンケート結果

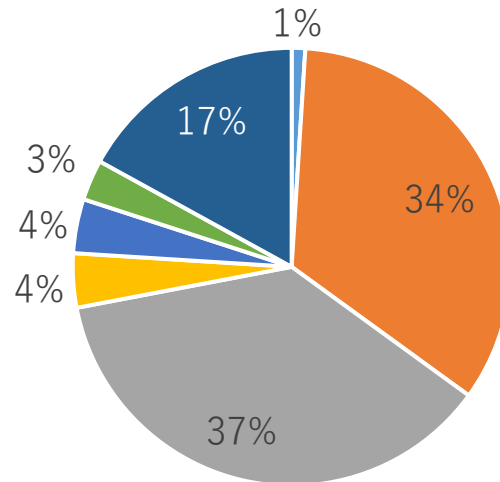
第1回 参加者:219名 回答数:126 回答率:58%
 第2回 参加者:289名 回答数:171 回答率:59%

◆ 参加者属性

【第1回】



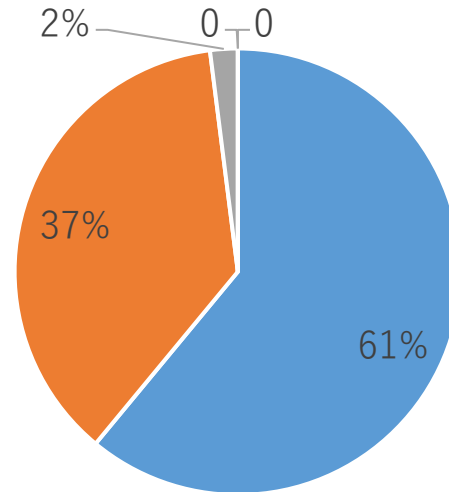
【第2回】



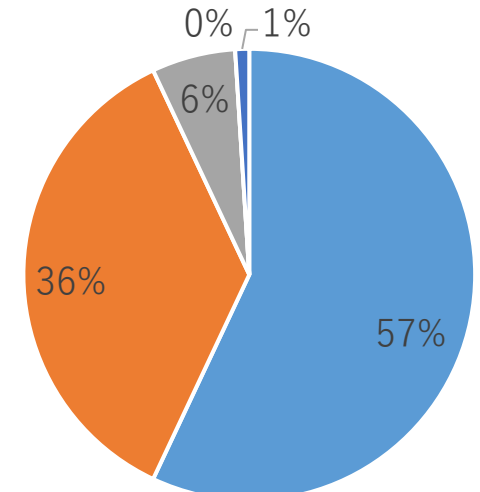
- 企業等の経営者
- 企業等における人事・労務部門担当者
- 企業等における産業保健スタッフ
- がん経験者・家族
- 医療機関職員
- 自治体職員
- その他
 - ・ 社会保険労務士
 - ・ 健康保険組合職員

◆ 満足度

【第1回】



【第2回】



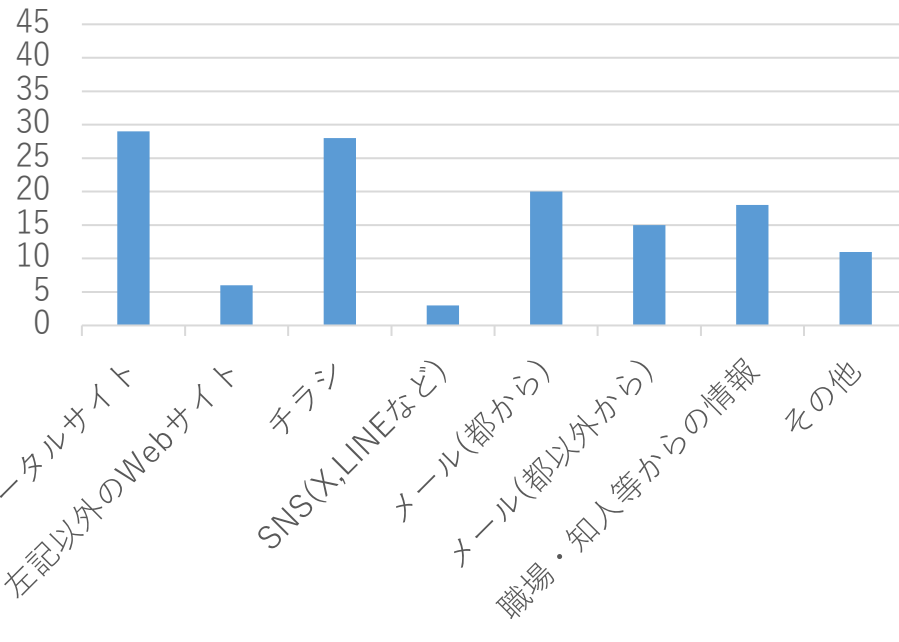
- 満足
- やや満足
- どちらでもない
- やや不満
- 不満

がんになった従業員の治療と仕事の両立支援セミナー（R4年度～）

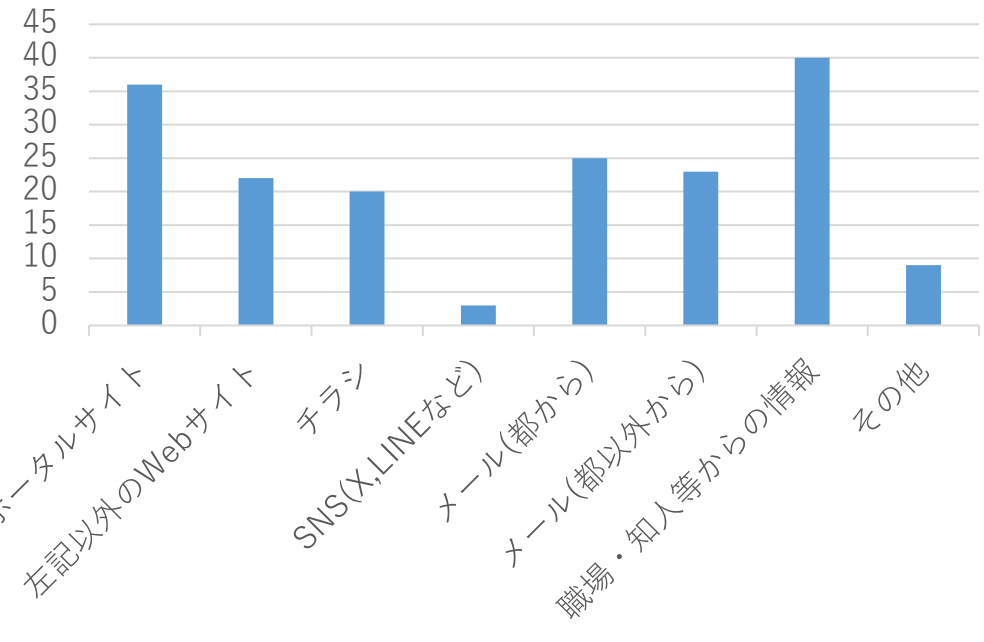
参加者アンケート結果

◆ セミナーを知ったきっかけ

【第1回】



【第2回】



◆ 主な自由意見

【第1回】

- ・それぞれの講師の方の話が具体的でわかりやすかった
- ・具体的な両立支援の進め方、参考資料やサイトなどご紹介いただき、今後に向けて大変参考になった
- ・来年4月からの努力義務化に向けて、どのように体制を整備すべきかより具体的・実務的な話を聞きたい(今後)

【第2回】

- ・がん経験者のお話が具体的で大変参考になった(多数)
- ・現時点で会社に両立支援の制度がないので、今後の見直しのため大変参考になった
- ・事業主に求められる配慮の具体的な考え方、対応が理解できた
- ・メンタルヘルス不調者への対応について今後取り上げてほしい

がんになった従業員の治療と仕事の両立支援セミナー（R4年度～）

3 令和8年度開催予定

開催方法：オンライン開催（終了後、がんポータルサイト上でアーカイブ配信）

開催回数：2回（令和8年11月・令和9年1月開催予定）

開催規模：各回300名

内容（案）：＜セミナー＞

・第1回と第2回でメインテーマ及び出演者を変えて実施

	第1回	第2回
テーマ	医療現場の相談事例から学ぶ 職場での配慮と実務対応	働くがん患者のメンタルヘルス
第1部（25～30分）	がん相談支援センター相談員等による講演	医師による講演
第2部（20分）	社会保険労務士による講義	
第3部（15分）	企業の取組事例発表（第2回のみ）	
第4部（15分）	がん経験者による経験談	
第5部（5分）	東京都難病・がん患者就業支援奨励金の紹介（都職員）	
第6部（40分）	パネルディスカッション（上記テーマ及び出演者）	

＜個別相談会＞

・企業等に対し、社会保険労務士がオンラインで個別の相談に対応
（セミナー後2時間程度、1組30分×4枠×相談員3名、事前予約制）

がん診断前後の退職防止動画の広告配信（R6年度～）

1 事業概要

目的：がんの疑いへの不安から冷静な判断が困難となり、退職・廃業を検討している都民に対し、必要な情報を届け、診断前後の早期退職を防止する。

主な対象：がんの疑いに不安を抱えている就労世代の都民

配信動画：動画タイトル「あなたと、あなたの大切な人の未来のために。」

➢60秒バージョン：<https://youtu.be/FF1KILCGKbk>

➢15秒バージョン：<https://youtu.be/r5IPbuSyABc>

配信方法：YouTubeインストリーム広告として配信



2 令和7年度実績

完全視聴数の目標値を設定するとともに、目標達成のための広告運用（素材、配信デバイス、ターゲティング方法の配分調整）を実施

※目標値：1,800,000人(都内の年間要精密者)×0.3(がん患者の3割が就労世代)×0.7(がんに関する情報を調べる方法としてインターネットを挙げた人の割合)=**378,000回**

主な対象：①がんの疑いに不安を抱えている就労世代の都民

②①の前段階の就労世代の都民

配信方法：スキップ可能なYouTubeインストリーム広告

➢がんに関するチャンネル指定及びコンテンツターゲティングを組み合わせ実施

➢一部、対象①により正確に届けるため、外部データを活用したコンテキストターゲティングを実施

カスタムオーディエンス(検索語句等に基づく配信)が最も対象者に的確に配信できると考えられたが、「がん」はパーソナライズ広告に該当し配信不可のため、外部データに基づき「がん」に関連する動画を抽出し、広告を配信するコンテキストターゲティングを実施。ただし、それだけでは配信数が限定されるため、「がん」に関するチャンネルへの配信及び過去に「がん」に関連する内容のコンテンツを閲覧したユーザーへの配信（コンテンツターゲティング）を実施。

がん診断前後の退職防止動画の広告配信（R6年度～）

配信実績

年度	配信期間	ターゲティング方法	素材	表示回数	クリック数	クリック率	完全視聴数	完全視聴率
R7	R7.9.8~10.7 R7.11.14~12.14	・チャンネル指定 ・コンテンツターゲティング ・外部データを活用したコンテキストターゲティング	全体	1,831,038	2,169	0.12%	870,178	47.53%
			60秒	1,234,250	1,398	0.11%	548,282	44.42%
			15秒	596,788	771	0.13%	321,896	53.94%
R6	R7.1.10~2.9	・外部データを活用したコンテキストターゲティング	全体	713,738	1,111	0.16%	70,440	9.87%
			60秒	204,164	286	0.14%	10,915	5.35%
			15秒	509,574	825	0.16%	59,526	11.68%

令和6年度と比較し、令和7年度は**完全視聴数・完全視聴率が大幅に増加**

▶チャンネル指定（がんに関するチャンネルの動画への配信）

- ・クリック率は高い（60秒で0.25%）一方、視聴率は低い、一定の興味関心層への配信ができた
- ・ただし、がん関連動画が少なく視聴者が限られ、リーチ数・配信量は限定的

▶コンテンツターゲティング（過去にがんに関するコンテンツを閲覧したユーザーへの配信）

- ・完全視聴率が高く（60秒で64%）、概ねターゲットへの配信ができていると考えられる（患者に多く届いている可能性はあり）
- ・リーチ数・配信量は今回最多

▶外部データを活用したコンテキストターゲティング

- ・ターゲット限定によりリーチ数・配信量が少ない（精度に問題）

※配信デバイスについて

令和7年度は**動画の内容を理解してもらうこと（60秒動画の完全視聴）を重視したため、TVデバイスへの配信を多くした**。完全視聴数の目標値達成後は**がんポータルサイトへの遷移を増やす（クリック数増）ため、モバイルへの配信を増やした**。

がん診断前後の退職防止動画の広告配信（R6年度～）

3 令和8年度実施予定

引き続き、**完全視聴数の目標値を設定**するとともに、**目標達成のための広告運用（素材、配信デバイス、ターゲティング方法の配分調整）を実施**

主な対象：①がんの疑いに不安を抱えている就労世代の都民
②①の前段階の就労世代の都民（がんに興味・関心高め）

配信方法：スキップ可能なインストリーム広告

➢**がんに関するチャンネル指定及びコンテンツターゲティングを組み合わせ実施**

➢外部データを活用したコンテキストターゲティングは精度の問題と配信数が限定されるため実施しない

配信期間：「がん征圧月間」であり、「職場の健康診断実施強化月間」とされる9月、及びがん検診の結果が出る11月中旬から12月上旬の2期に分けて**集中的に配信**する。

スケジュール

時期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R9.1月	2月	3月
内容	契約締結	配信準備	★広告配信 (1回目)		★広告配信 (2回目)	→	効果検証		

がん治療と就労の両立に向けた支援事業（大学提案事業）（R5年度～R7年度）

大学研究者による事業提案制度

<https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/zaisei/zaisei/teian/daigaku/5daigaku>

- 都では、都内大学研究者から、研究成果・研究課題を踏まえた事業提案を募集し、研究者・大学と連携・協働して事業を創出する制度（大学提案）を実施
- 令和4年度に東京医科歯科大学（現東京科学大学）が提案した「がん治療と就労の両立に向けた支援事業」が都民投票により採択され、令和5年度から令和7年度までの3か年の事業として実施

事業内容

- ▶ **目的**：頭頸部がん患者は、腫瘍の位置により「見る」「聞く」「話す」「食べる」ことに困難を抱えることが多く、見かけの変化を隠すことが難しいという特殊性を持ち、社会生活との両立が難しい。
 ➔ **頭頸部がん患者の治療と就労の両立を多角的に支援する体制モデルを構築する。**

▶ 主な研究成果

(1) 治療と就労の両立を念頭においた医療技術の研究

- 形態及び機能温存に貢献する放射線治療補助装置の研究
- 治療後の回復と社会復帰に有用な欠損補綴装置の製作・評価におけるデジタル技術の研究
- AI技術を用いたリハビリテーションシステムの開発

(2) 治療と就労の両立のために患者が求める支援や課題抽出

東京科学大学他、都内がん診療連携拠点病院等に通院中の頭頸部がん患者へのアンケートを実施し、治療と就労の両立のために患者が求める支援や課題を抽出

▶ 研究成果普及のための取組

(1) シンポジウムの開催

医療従事者向け(R6.12)、患者向け(R7.3)、企業向け(R8.2)シンポジウムをそれぞれ開催（計360名参加）

(2) 頭頸部がん患者向け冊子（マンガ）の作成

- ・ **頭頸部がん患者の社会生活に役立つ情報や、周囲の方、企業の理解を深める内容**
- ・ 区市町村、がん拠点病院、企業関係団体に配布する他、がんポータルサイトにも掲載

アンケート結果から抽出された患者が求める支援や課題については、頭頸部がん患者に特有なもの（食事や発話等の悩み等）もあれば、**がん患者全般に共通するものも多くあった。**

頭頸部がん患者に限らず、全てのがん患者の治療と就労の両立を支援するための施策について、引き続き検討、実施

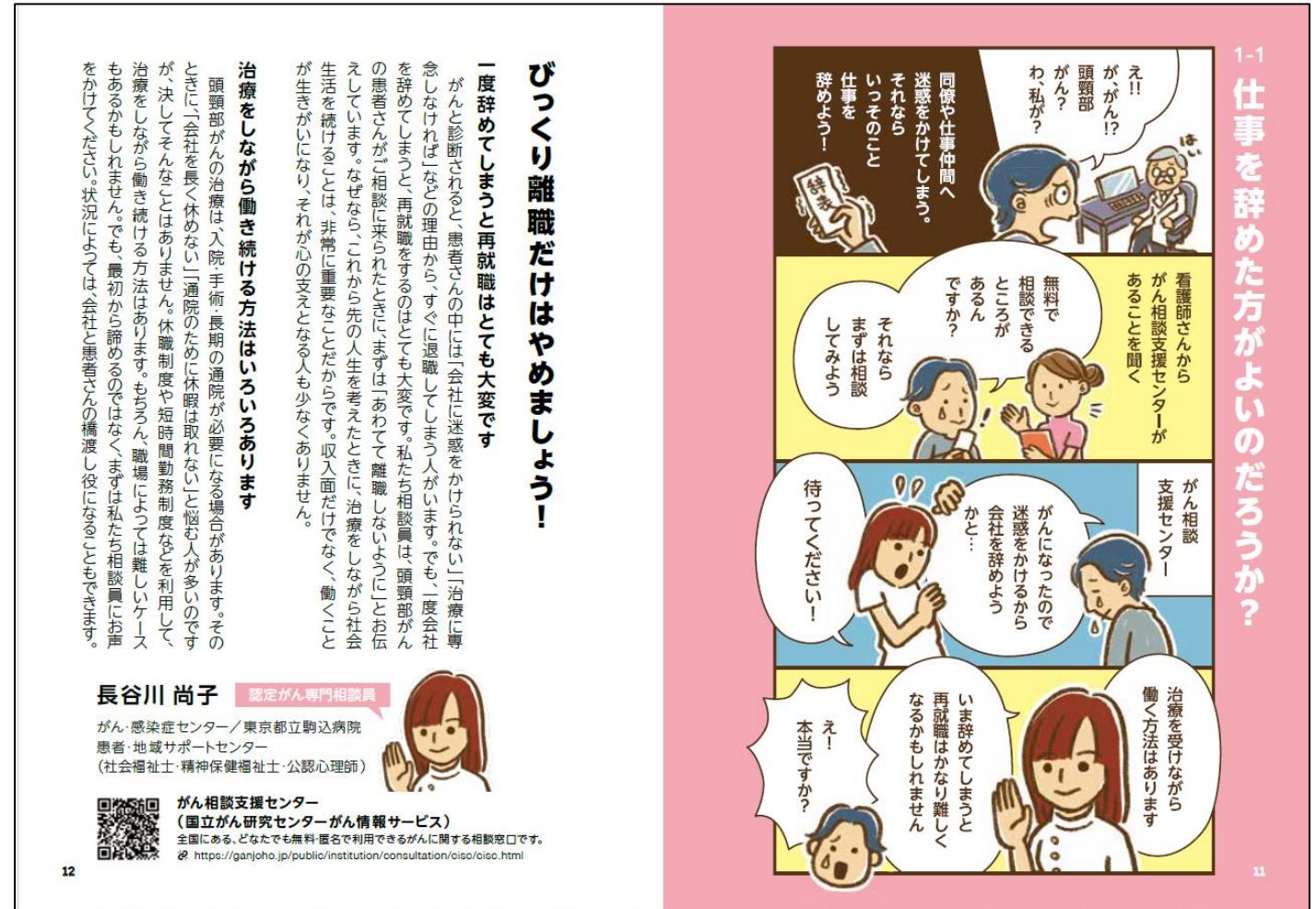
がん治療と就労の両立に向けた支援事業（大学提案事業）（R5年度～R7年度）

頭頸部がん患者向け冊子

<https://www.gan-portal.metro.tokyo.lg.jp/support/hatarakusedai/toukeibugan.html>



表紙



本文

がん患者の治療と仕事の両立支援のための資材の作成（R8年度）

1 患者・家族と職場のコミュニケーションを促進・支援する冊子の作成

【現状・課題】

- ・ 職場における両立支援は**患者からの申し出により始まる**。
- ・ 職場において、患者の状況や職場内制度に応じた最適な配慮・支援を講じるためには**職場と患者の適切な意思疎通が必要**
- ・ がん患者を抱える家族が、患者の看護・介護と仕事の両立を図る場合においても、職場との適切な意思疎通が必要
- ・ しかし、**職場側は患者及び家族からどのような配慮を求められているかわからず、対応に苦慮しているケースもある**。

患者及び家族が、職場において最適な配慮・支援を受けるためには、企業への普及啓発だけでなく、
患者及び家族自身が必要な情報を理解することも重要



患者及び家族が職場に対して、支援の申し出を含めた適切なコミュニケーションを図り、
それぞれの状況や職場内制度に応じた最適な配慮を受けることができるよう、
患者及び家族と職場のコミュニケーションを促進・支援するための資材を作成
(「東京都がん対策推進計画（第三次改定）」においても治療と仕事の両立支援の項目で明記)

がん患者の治療と仕事の両立支援のための資材の作成（R8年度）

掲載内容(案)

項目	詳細	規格
職場との具体的なコミュニケーションの図り方	・ 職場における両立支援の具体的な流れ ・ 診断後、治療中、休職前、休職中、復職後等、それぞれの状況に応じた職場とのコミュニケーションの図り方（職場への具体的な伝え方） ・ 職場に確認すべきポイント ・ 各場面で両立支援のために職場が必要とする情報 ※非正規雇用の場合の対応についても記載	A5版カラー 32ページ程度
医療機関からの情報収集の方法	・ 各場面で主治医に確認すべきポイント ・ 主治医意見書の依頼方法	
がん患者の家族の仕事と介護等の両立のために必要な情報	・ 職場に確認すべきポイント ・ 職場が必要とする情報 ・ 家族が利用可能な支援制度 等 ・ 主治医に確認すべきポイント ・ 職場への具体的な伝え方	
利用可能な支援制度	・ 都内の相談窓口（がん相談支援センター、産業保健総合支援センター等） ・ 東京都がんポータルサイト	

前回WGでいただいた主なご意見

- ・ 企業規模や非正規雇用など多様な雇用形態にも配慮が必要
- ・ 既存資材との差別化のため、都が作成する意義（地域性・都内資源の可視化）を明確にすべき
- ・ タイミング別のコミュニケーション整理ができると汎用性が高い
- ・ 患者本人と患者を支える家族では、抱える悩みや職場に求める配慮が異なるため、それぞれ整理して掲載

がん患者の治療と仕事の両立支援のための資材の作成（R8年度）

2 職場の上司・同僚等の関係者にとって必要な情報をまとめたリーフレット

【現状・課題】

- ・これまで通り仕事を続けたいがん患者・がん経験者の意向と、上司も含めた周囲の考えの間には乖離がある。
- ・治療実績の向上により、がんに対するイメージは変わってきているものの、職場の関係者が病気や治療による仕事への影響やがん患者の思いを知る機会は少なく、適切な接し方を知らない可能性もある。

職場における支援の推進のためには、上司や同僚等の職場の関係者の理解が必要
特に、就労継続にあたっては、上司の対応が非常に重要



がん患者を抱える職場の上司や同僚等の関係者を支援するため、必要な情報をまとめた資材を作成
（「東京都がん対策推進計画（第三次改定）」においても治療と仕事の両立支援の項目で明記）

がん患者の治療と仕事の両立支援のための資材の作成（R8年度）

掲載内容(案)

種類	掲載内容	備考
上司編	・ 両立支援の必要性 ・ 両立支援の流れ ・ 本人への接し方 ・ 支援のポイント（診断時、治療中、休職前、休職中、復職後等、状況に合わせた支援のポイントや留意点、人事部門や産業保健スタッフとの連携方法、同僚への働きかけ等） ・ 支援制度等（東京都がんポータルサイト等）	・ A5版カラー ・ 12ページ程度
同僚編	・ 両立支援の必要性 ・ 本人への接し方（声のかけ方、フォローする場合の対応等） ・ 情報の取扱い ・ 支援制度等（東京都がんポータルサイト等）	・ A4二つ折りカラー ※上司編よりライトな内容

- がん患者を抱える職場において、上司・同僚が参考にできる資材とする
- 各企業の社内イントラに掲載する、罹患の報告のあった上司・同僚に人事担当から配布する、等
特に同僚編については、企業の新人研修や採用説明会などでの配布など、幅広く活用してもらえるものとする

前回WGでいただいた主なご意見

- ・ 上司の理解不足で支援が機能しないケースが多いため、上司から人事・産業保健スタッフに相談する流れを明確に示す必要がある
- ・ 中小企業・個人事業主でも活用できる内容にすべき
- ・ 分量の多い資料は読まれにくいいため、簡潔・具体・要点整理された構成が重要

がん患者の治療と仕事の両立支援のための資材の作成（R8年度）

3 資材の作成・周知方法等

作成方法：がん患者の就労問題に詳しい有識者等（学識経験者、社会保険労務士、がん相談支援センター相談員、企業の人事・労務担当者、がん罹患経験者）にヒアリングを実施した上で作成

周知方法：➤患者・家族向け資材についてのみ印刷・配布（職場向け資材については印刷・配布はなし）

【配布先】がん診療連携拠点病院等、区市町村、各労働相談窓口、ハローワーク等

【規模】7,760部程度

➤PDFで東京都がんポータルサイトに掲載

➤プレス、LINEプッシュ、X、関係機関へのメール等で発信

➤職場向けについては、企業関連のメルマガや、企業向けセミナー等でも周知

スケジュール

時期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R9.1月	2月	3月
内容	契約締結	作成	ヒアリング実施（複数回）			データ納品	印刷	納品	配布周知